

慶應義塾大学大学院 文学研究科 修士課程

史学専攻 東洋史学分野

3つのポリシー

【ディプロマ・ポリシー】

史学専攻東洋史学分野では、課程修了時に大学院生が身につけるべき能力として以下のものを定め、学則に従って修了要件を満たし、修士論文審査に合格した学生についてはこの能力を身につけた者と認め、修士（史学）の学位を与える。

1. 中国史学、中東・イスラーム世界史学など東洋史学の諸分野において、研究領域全般に関する専門知識を身につけ、対象地域の使用言語を含む複数の外国語を使用し、専門的なリサーチを展開し、その成果を日本語で発表できる。
2. 中国史学、中東・イスラーム世界史学など東洋史学の研究を内容として日本語で修士論文を執筆して審査に合格し、さらに、修士論文のテーマに関連する領域について包括的で深い専門知識を有し、当該領域の研究に貢献することができる。
3. 異文化の歴史的特性を理解し、他者と積極的に交流をはかり、重要な問題や課題を的確に認識し、それを解決していくための議論や実践に資するリサーチの能力、プレゼンテーションの能力を身につけていることで、高度な異文化リテラシーを備えた社会人、研究者、教育者として日本社会のみならず地球社会に貢献できる。

【カリキュラム・ポリシー】

史学専攻東洋史学分野では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として、以下のカリキュラムを編成する。

1. 中国史学、中東・イスラーム世界史学など東洋史学の諸領域に関する多彩な講義演習科目群を設置することで、研究を展開するために必要な専門知識、リサーチの能力、研究資料の分析能力、思考力および議論構成の能力を養成する。
2. 修士論文の執筆を可能とするため、指定された指導教員が中心となって個別論文指導を行い、研究テーマについての知識を深めるとともに、高度なリサーチの能力および論述力を養う。また、修士論文の中間報告会を適宜開催するなど、複数の教員から指導を受ける機会を提供する。
3. 異なる環境を通じて高度な異文化リテラシーを身につけるために、文学研究科や慶應義塾大学国際センターによって提供される留学プログラム、さらには学内外の各種留学制度などを活用した、海外の大学院への修士学位取得を目的とした長期留学、

あるいは単位取得や専門的なディプロマ取得を目的とした短期留学を推奨する。

【アドミッション・ポリシー】

史学専攻東洋史学分野の修士課程では、次のような資質を持つ学生を求めている。

1. 卒業論文執筆や専門科目の履修等を通じて自身の専門領域についての理解を深め、中国史学、中東・イスラーム世界史学など東洋史学の領域全般についての基礎知識を有している。
2. 大学院において、何をどのような方法で研究したいのかという研究計画について自ら考え、日本語でまとめることができる。
3. 英語をはじめとした主要なヨーロッパ言語の研究資料を正確かつ批判的に読むことができる基礎的な読解力を身につけている。
4. 修士課程修了後の社会人、研究者、教育者としてのキャリアについて、積極的に考えている。